

しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト

UDC信州 コーディネーター 倉根明徳

しなの鉄道株式会社経営戦略部営業課 課長 唐澤貴之

千曲市経済部観光交流課 係長 緑川健

上田市都市建設部都市計画課 主任 東城雄飛

信州地域デザインセンター(UDC信州)について

長野県、UR都市機構、東京大学、信州大学、県内出版社の5団体で設立
中間支援組織であり、県内市町村のまちづくりをサポート

信州地域デザインセンターとは？

設立の目的

これまで県内各地で多くの活発なまちづくりの取り組みが進められ、成果を上げてきましたが、その一方で、市町村単独で取り組むことには限界もあり、地域が広域で連携して資源をつなぐと共に、協力してまちづくりの担い手を育てていくことも重要になってきています。

2019年8月に設立した信州地域デザインセンター(UDC信州)は、公・民・学が連携した新しい形のまちづくり支援組織として、様々な活動を通じ、「しあわせ信州創造プラン2.0」(長野県総合5か年計画)に位置付けた「未来に続く魅力あるまち」を実現していきます。

理念と活動

3つの理念

- 連携により
新たな価値を創る
- 空間の質を向上する
- 未来を志向する

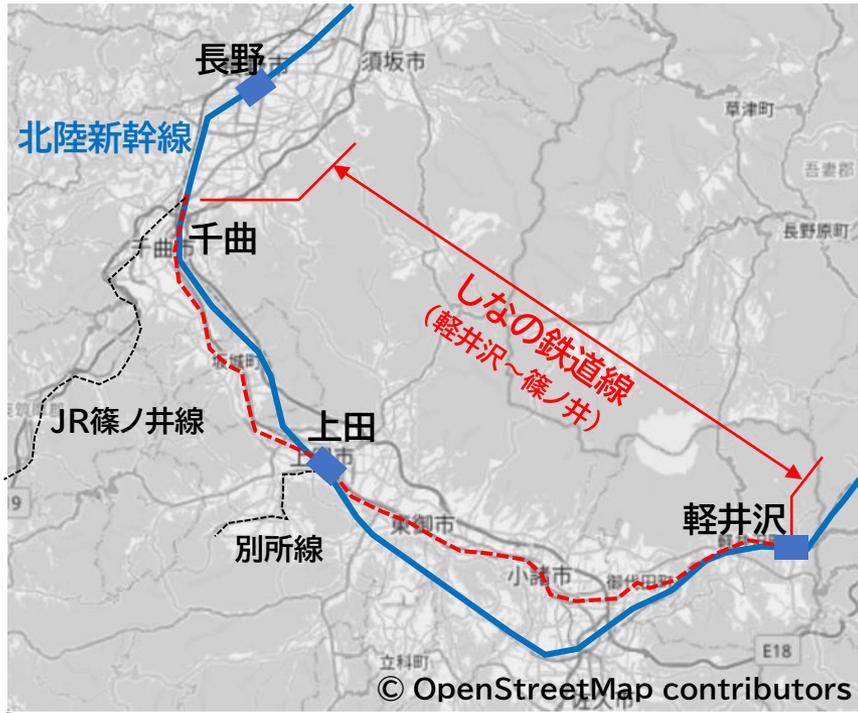
3つの活動

- 支える
まちづくり支援 
- 育む
セミナー等開催 
- 発信する
情報発信 

構成団体



しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト



●北陸新幹線

東京 - 軽井沢 65分
上田 85分
長野 81分

●しなの鉄道

上田 - 戸倉 12分
(東京から約2時間)



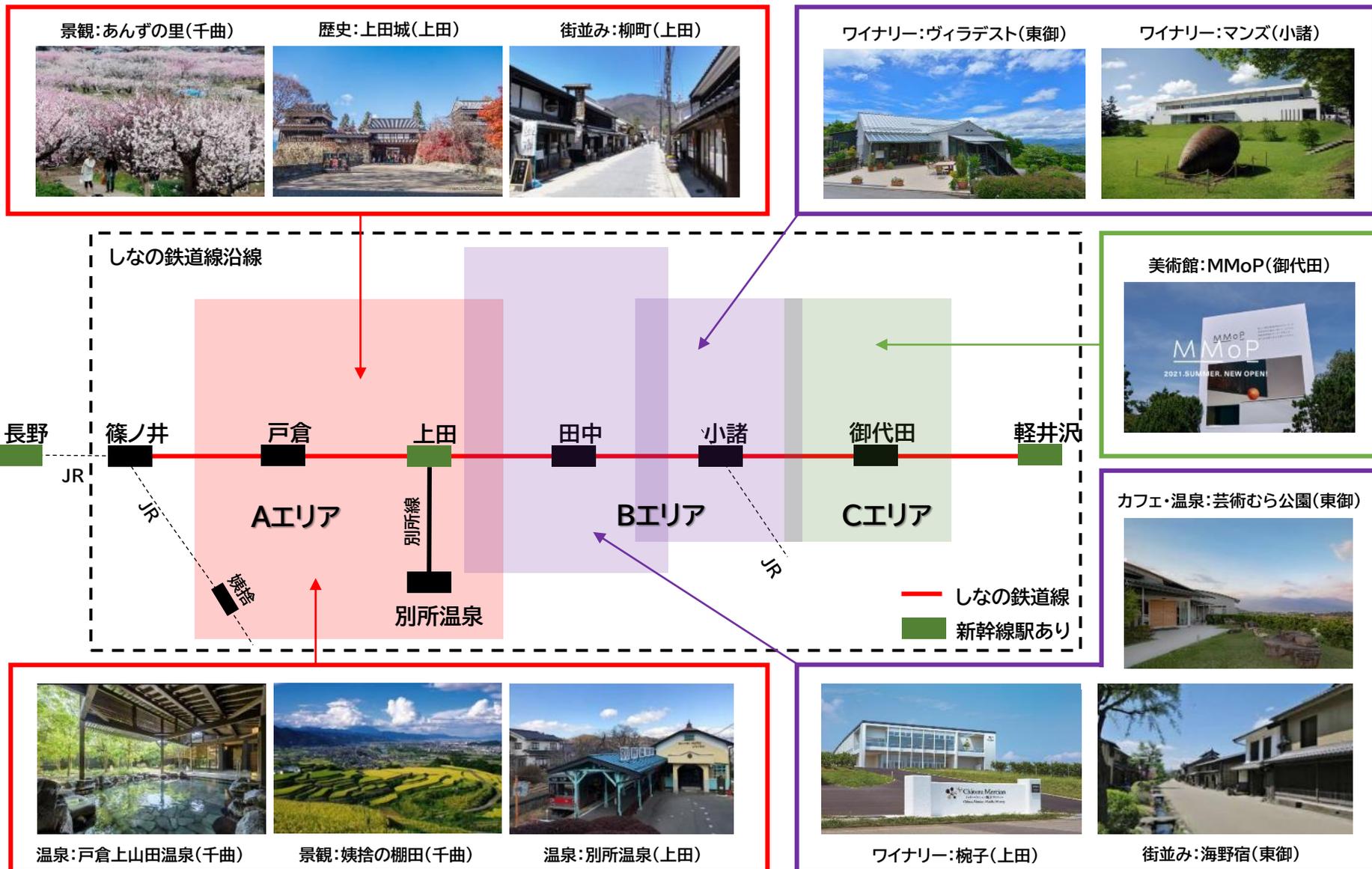
しなの鉄道の観光列車「ろくもん」

軽井沢から長野間を運行

しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト

【沿線地域の資源(一例)】

➤ 駅と地域資源が近いAエリア、遠いBエリア、今後展開が期待されるCエリア



しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト

【目的】

- 軽井沢・上田・長野といった新幹線駅に偏ってしまっている観光客に、しなの鉄道沿線の魅力を知っていただき、沿線地域を回遊し・楽しんでいただく
- そのために、観光客がストレスなく回遊できる新たな交通システムを構築する
- 観光客に評価してもらうことで、地元住民のシビックプライドも向上させる(させたい)
- 長期的には、回遊システムで得た知見や利益を地元住民のための公共交通に還元



- ・ R2年度に沿線自治体+しなの鉄道で勉強会を設置
- ・ R3年度から一部地域(上田市・千曲市)で実証実験を開始(広域シェアサイクル)

沿線自治体の人口および観光客数

沿線自治体	人口(人)	観光客数(百人)			新幹線駅
		県内	県外	合計	
軽井沢町	19,165	16,332	67,900	84,232	○
御代田町	15,396	930	1,128	2,058	
小諸市	41,359	4,968	9,924	14,892	
東御市	29,305	9,131	8,600	17,731	
上田市	153,612	22,639	22,183	44,822	○
坂城町	14,247	329	57	386	
千曲市	59,054	7,617	6,187	13,804	
長野市	369,097	55,072	48,973	104,045	○
合計	701,235	117,018	164,952	281,970	

出所：人 口：毎月人口異動調査（2020年3月分）
観光客：令和元年観光地利用者統計調査結果

【しなの鉄道沿線地域まちづくり勉強会の設置】

参加団体：小諸市(都市計画課)、東御市(建設課、商工観光課)、上田市(都市計画課)、
千曲市(都市計画課、観光交流課)、しなの鉄道株式会社

企画運営：信州地域デザインセンター(UDC信州)

議題：①沿線地域の価値を再認識(座学)

UDC信州のコーディネーターでもある雑誌出版社
の代表からレクチャー

②沿線地域の価値を再認識(まち歩き)

ホスト団体の案内でまち歩きを実施。座学だけでは
分からない魅力を体験

③各団体の施策・取組みの共有

既存の施策だけではなく、検討中の施策も含めて
沿線自治体等で共有

④沿線地域の魅力を活かすためのアイデア出し

①～③を踏まえた上で、自由な意見交換を実施

- 「新幹線駅に偏っている観光客をしなの鉄道沿線地域に誘客する」というビジョンが共有できた
- 各担当者が何となく考えていたことをが、大きなビジョンとして共有できたことが最大の成果



勉強会の様子(座学)

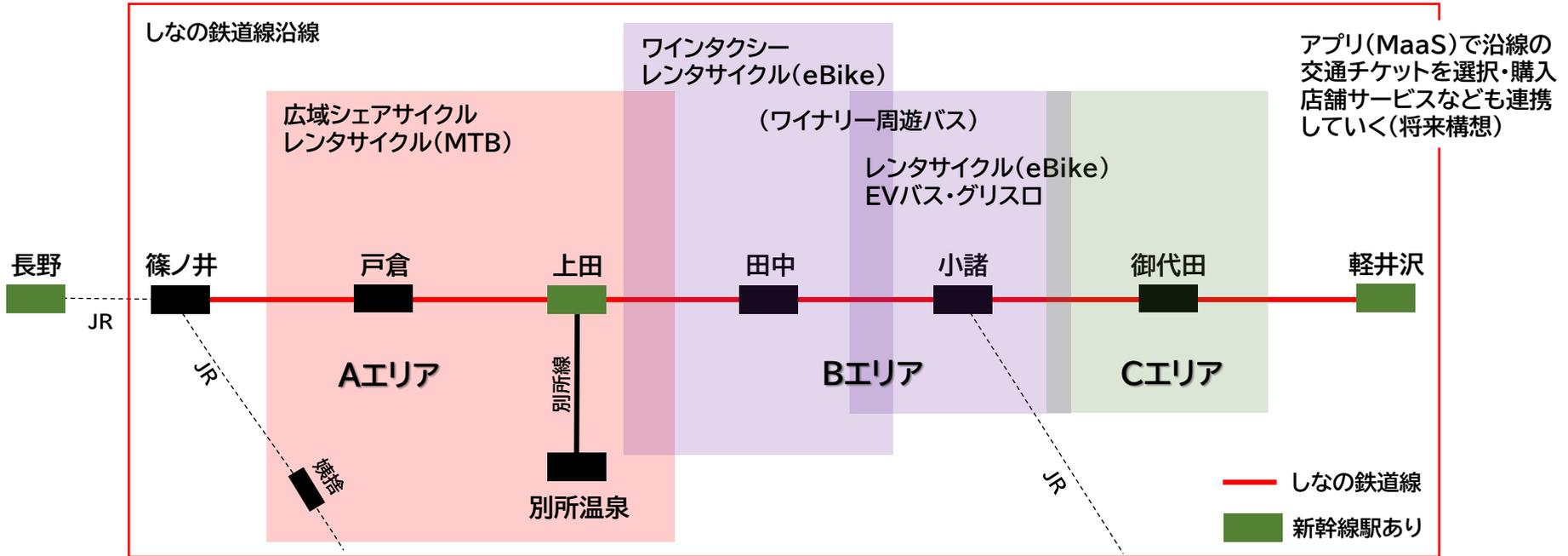


勉強会の様子(まち歩き)

【全体構想】

※あくまで勉強会で議論した構想であり地域全体で共有・合意されたものではありません

しなの鉄道、別所線、既存の公共交通に地域に適した新たな手段を追加し、各地域の資源と結ぶ



しなの鉄道+別所線

- ・軽井沢～小諸フリー切符(新)
- ・小諸～上田フリー切符(新)
- ・軽井沢～別所温泉フリー切符(既設)



シェアサイクル
レンタサイクル

上田、千曲、東御、小諸エリア



しゅみのタクシー
10分
Wine Taxi
どうみ
ワイン
タクシー

ワインタクシー

東御エリア



周遊バス

小諸エリア



グリスロ

小諸エリア

⇒観光客や住民がストレスなく回遊できる新たな交通・案内システムを構築

【広域シェアサイクル社会実験 (R3年度:Aエリア(上田市、千曲市)で実施)】

しなの鉄道、別所線、既存の公共交通に地域に適した新たな手段を追加し、各地域の資源と結ぶ

- 運行日 : R3.7.1~R3.12.19の毎日(約6か月間)
- 運行台数 : 電動アシスト付き自転車60台(上田市30台、千曲市30台)
- ポート数 : 上田市5ポート、千曲市5ポート(合計10ポート)
カーシェアステーション各1箇所(合計2か所)



必要に応じてシェアカーも追加
(長野トヨタ)

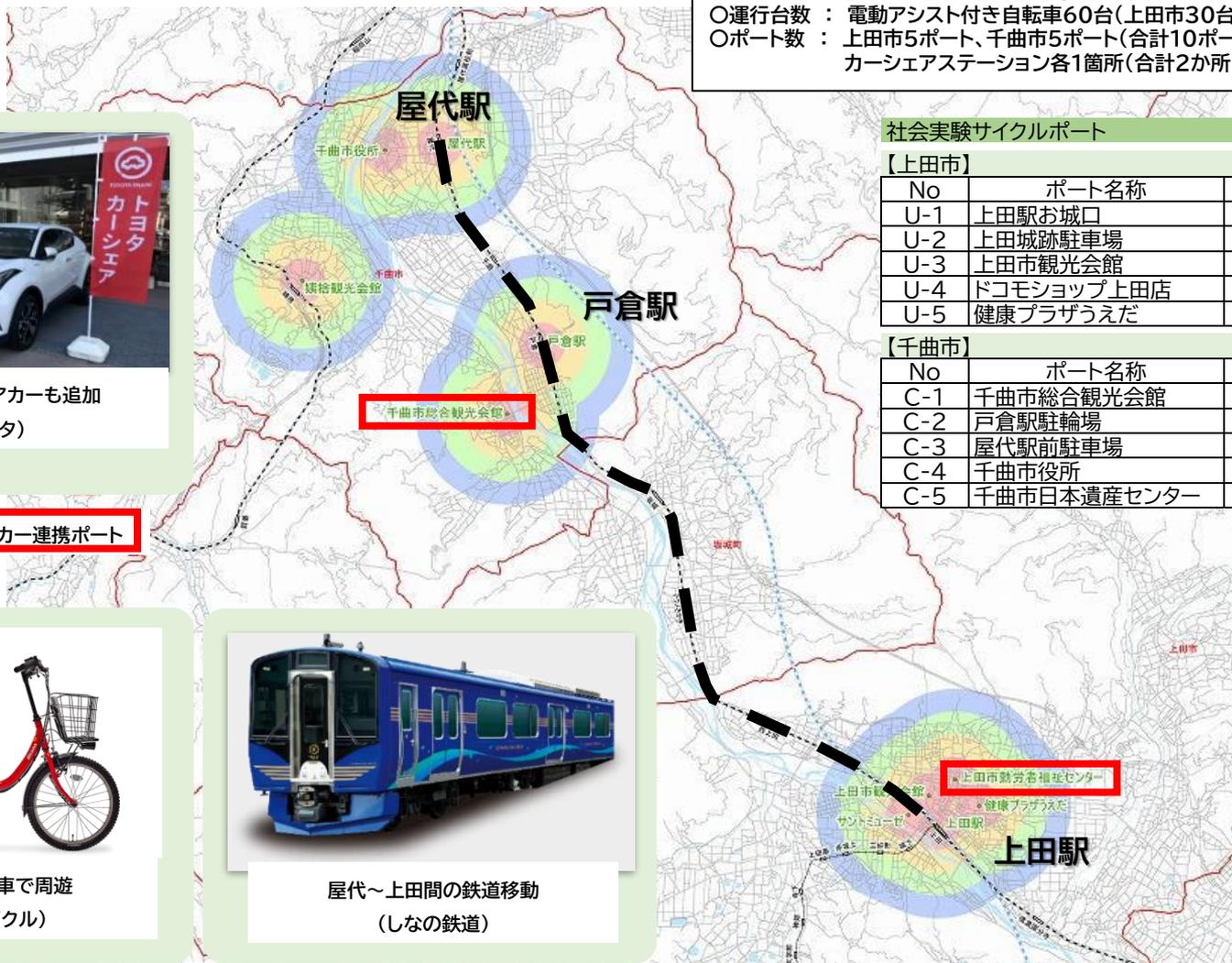
シェアサイクル+シェアカー連携ポート



近距離を自転車で周遊
(シェアサイクル)



屋代~上田間の鉄道移動
(しなの鉄道)



社会実験サイクルポート

【上田市】

No	ポート名称	利用時間
U-1	上田駅お城口	6:00~22:00
U-2	上田城跡駐車場	24時間
U-3	上田市観光会館	24時間
U-4	ドコモショップ上田店	24時間
U-5	健康プラザうえだ	24時間

【千曲市】

No	ポート名称	利用時間
C-1	千曲市総合観光会館	24時間
C-2	戸倉駅駐輪場	24時間
C-3	屋代駅前駐車場	24時間
C-4	千曲市役所	24時間
C-5	千曲市日本遺産センター	24時間

凡例

- ポート候補地
- ポート距離圏
 - 500m圏
 - 1000m圏
 - 1500m圏
 - 2000m圏

【広域シェアサイクル社会実験 (R3年度:Aエリア(上田市、千曲市)で実施)】

地元高校、大学との連携授業、シェアサイクルを使った観光ツアーなど様々な分野へ波及



【広域シェアサイクル社会実験（R3年度:Aエリア(上田市、千曲市)で実施)】

半年間の社会実験で成果(想定外も含む)と課題が明らかになった

- 実験主体 : 上田市、千曲市 (サポート:UDC信州)
- 実験期間 : R3.7.1~R3.12.19の毎日(約6か月間)
- 運行台数 : 電動アシスト付き自転車60台 (上田市30台、千曲市30台)
- ポート数 : 上田市5ポート、千曲市5ポート(合計10ポート)

【実証実験中の利用実績(速報値)】

- ・登録者数 682人
- ・利用者数 1,754人 (上田市:815人、千曲市:939人)
- ・利用回数 2,467回 (上田市:1,114回、千曲市:1,353回)
- ・回転数 0.24回/台・日 ※独立採算を考えると最低でも「1.0回/台・日以上」は欲しい

【アンケート調査等】

- ・市民アンケート 583人に実施 (集計中)
- ・利用者アンケート 77人に実施 (速報値あり)
- ・GPS追跡調査 10月~11月の1ヵ月間実施 (分析中)

上田市~千曲市~長野市を結ぶ全長23.1kmの自転車道も活用された→



【広域シェアサイクル社会実験（R3年度：Aエリア（上田市、千曲市）で実施）】

鉄道と合わせた利用やマイカーからの乗り換えなどが確認できた

【利用者アンケートの概要】

目的：利用者に対して、属性や利用目的、利用頻度、満足度、意見・要望等を調査
次年度以降の社会実験・本格導入に向けた現状課題を把握する

対象：上田市・千曲市でシェアサイクルを利用した方（682名）

方法：WEB アンケート

回答：77人

【利用者アンケートの結果】

項目	上田市	千曲市
居住地	・地元居住者が約6割 ・長野県外が3割	・地元居住者が約5割 ・長野県内他市町、長野県外が約2割
利用頻度	・不定期や旅行時のみの利用が約8割	・不定期や旅行時のみの利用が約8割 ・ほぼ毎日、週に数回の日常利用が約2割
乗り継ぎ利用	・鉄道との乗り継ぎ利用が約5割 →駅からの二次交通手段として利用が多い。	・鉄道との乗り継ぎ利用が約4割
シェアサイクルがなかった場合の移動手段	・マイカーが3割 →移動時のCO ₂ 排出削減にも寄与していることが予想される。	・マイカーが約4割
利用目的	・観光が約4割 ・日常利用（通学・買物・仕事）が約3割 ・身近なサイクリングが約2割	・観光が約3割 ・日常利用（通勤・買物・仕事）が約4割 ・身近なサイクリングが約3割

鉄道+自転車が4割～5割
→二次交通として機能

マイカーからの乗り換えが
3割～4割
→ゼロカーボンの推進

観光目的が3割～4割
→観光促進

【広域シェアサイクル社会実験（R3年度：Aエリア（上田市、千曲市）で実施）】

消費促進や滞在時間の延長にも効果。一方で自転車の性能やポート数は課題

【利用者アンケートの結果】

項目	上田市	千曲市	
観光目的	手荷物	・持ち運んで移動が5割	・宿泊先に預けて移動が約4割
	宿泊先	・県内他市町で宿泊が約4割 ・宿泊していないが約4割	・千曲市内の宿泊が約4割 ・宿泊していないが約3割
	滞在期間	・1日以下が8割	・1日以下が約4割 ・2日以上が約6割
	消費促進効果	・効果ありの合計が9割	・効果ありの合計が約7割
	滞在期間増加効果	・効果ありの合計が10割	・効果ありの合計が10割
立ち寄った場所	・上田城址公園が約7割 ・北国街道柳町が約4割	・戸面上山田温泉が5割 ・千曲川サイクリングロードが約4割	
利用動機	・電動アシストだからが約8割 ・歩くより楽が約7割	・電動アシストだからが約6割	
評価	・全体評価では約9割が満足 ・自転車の乗りやすさや台数の評価は高いが、電動アシストの駆動時間やサイクルポートの配置の評価が相対的に低い	・全体評価では約8割が満足 ・サイクルポートの配置の評価が相対的に低い	
	→一定の評価はされているが、電動アシストの駆動時間やサイクルポートの配置など、改善する余地がある。		
今後の利用意向	・利用したいが約8割	・利用したいが約7割	

消費促進や滞在期間の延長に高い評価

シェアサイクルの評価は高い
→自転車の性能やポートの位置や数は課題

⇒現在実施中の市民アンケートでも同様の傾向があったことから、両市ともに来年度も社会実験を継続の予定(自転車やポートも拡充予定)

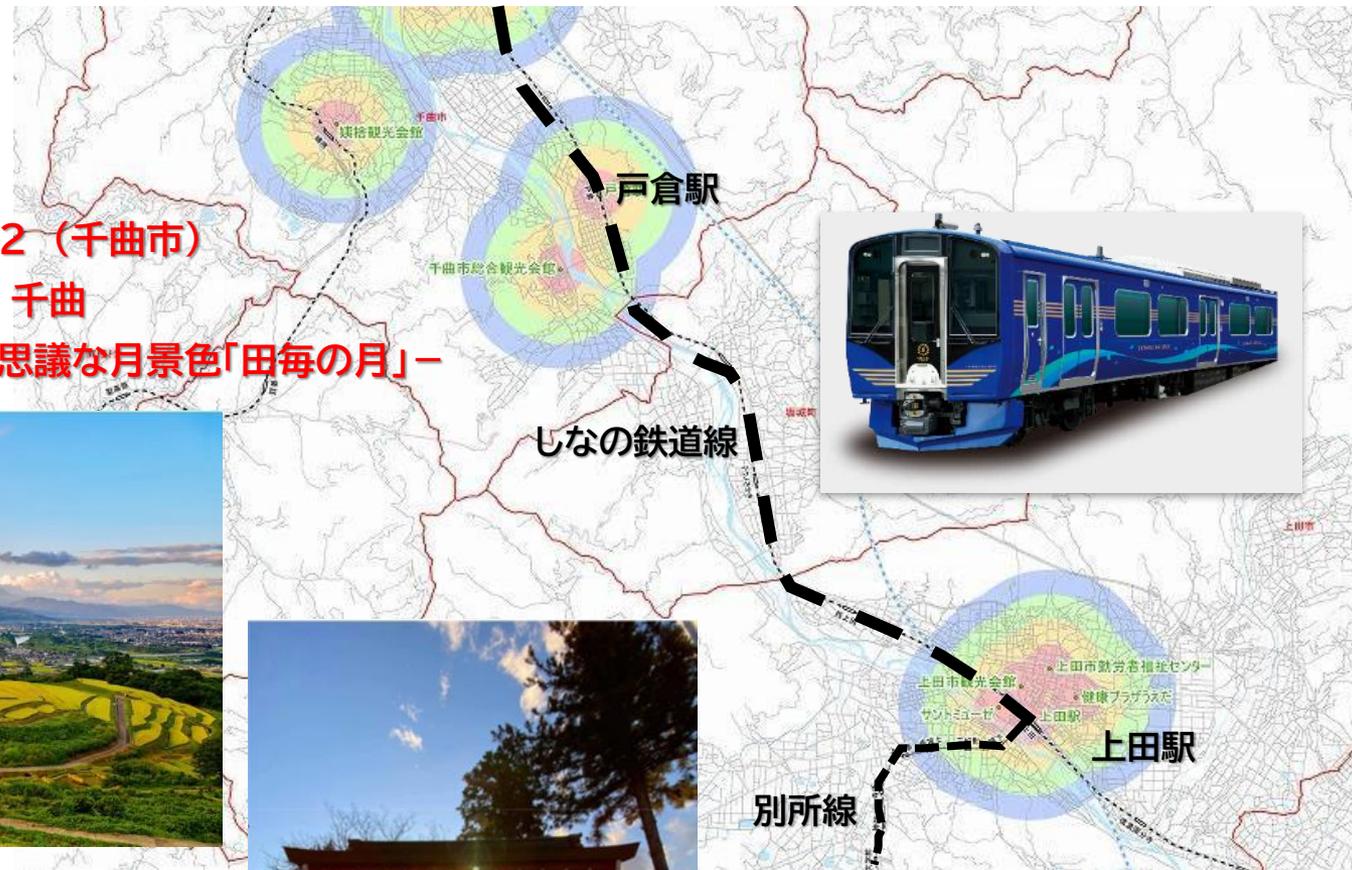
【広域シェアサイクル社会実験 (R3年度:Aエリア(上田市、千曲市)で実施)】

R4年度は、様々な交通手段を使って2つの日本遺産を巡る企画も検討中！

日本遺産 #92 (千曲市)

月の都 千曲

— 姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」—



日本遺産 #93 (上田市)

レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」

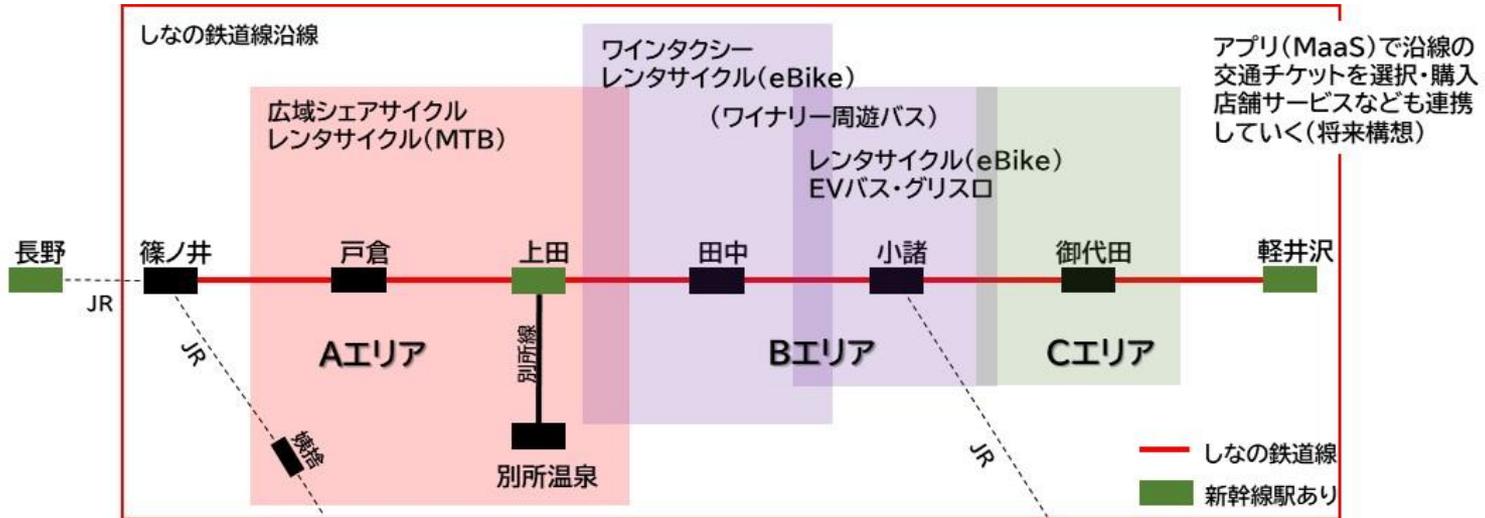
～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～



【全体構想】

※あくまで勉強会で議論した構想であり地域全体で共有・合意されたものではありません

しなの鉄道、別所線、既存の公共交通に地域に適した新たな手段を追加し、各地域の資源と結ぶ



しなの鉄道+別所線

- ・軽井沢～小諸フリー切符(新)
- ・小諸～上田フリー切符(新)
- ・軽井沢～別所温泉フリー切符(既設)



シェアサイクル
レンタサイクル

上田、千曲、東御、小諸エリア



ワインタクシー

東御エリア



周遊バス

小諸エリア



グリスロ

小諸エリア

⇒観光客や住民がストレスなく回遊できる新たな交通・案内システムを構築



このツールを使って、いかにこの地域を楽しんでいただくか、地域や各拠点との繋がりと関係性をどうつくっていくかを多様な方と考えていきたい。